

## イシガレイ稚魚の接岸

### ■イシガレイ稚魚の接岸

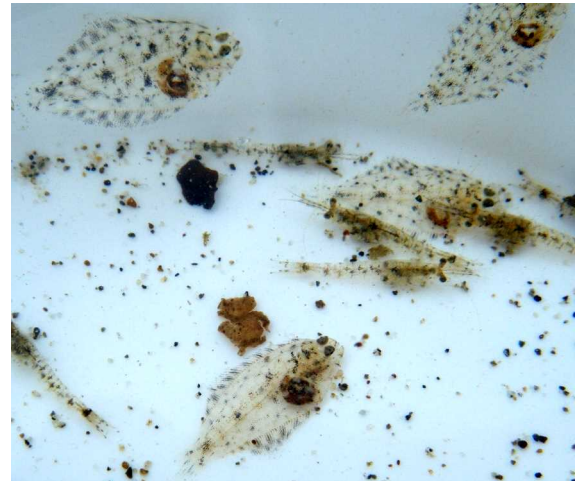
今年もイシガレイの稚魚が接岸する季節となった。昨年9月から河口に砂が堆積し、多くのイシガレイの稚魚を採集した部分（レポート85号参照）が埋まってしまった。しかし、今回の調査では、新たに堆積した砂地で多くの稚魚を採集することができた（Fig. 1）。1.5cm程度の個体が多く、色素はまだ定着せず透明である。消化管内に摂餌したの見える個体も採集された（Fig. 2）。

2014、2015年は干潟内での採集数が大変少なかった。今回の調査では河口域で51匹採集したのに対し、干潟内では8匹であった。昨年は1回の調査で干潟内で採集できた稚魚は1～3匹であったので、干潟内で採集した稚魚の数は若干だが増えている。

Fig. 3は昨年採集したイシガレイのデータである。採集した数は少ないが、干潟内の方が成長がよい傾向がある。Table. 1は今回の調査で採集した稚魚の大きさであるが明確な差があるようには思えない。今後の調査で河口域と干潟内での成長に差が見られるか、注意して調査を続けていきたい。

	河口域 (51匹)	干潟内 (8匹)
1.0cm	6匹	0匹
1.5cm	34匹	6匹
2.0cm	10匹	1匹
2.5cm	1匹	1匹
平均全長	1.56cm	1.69cm

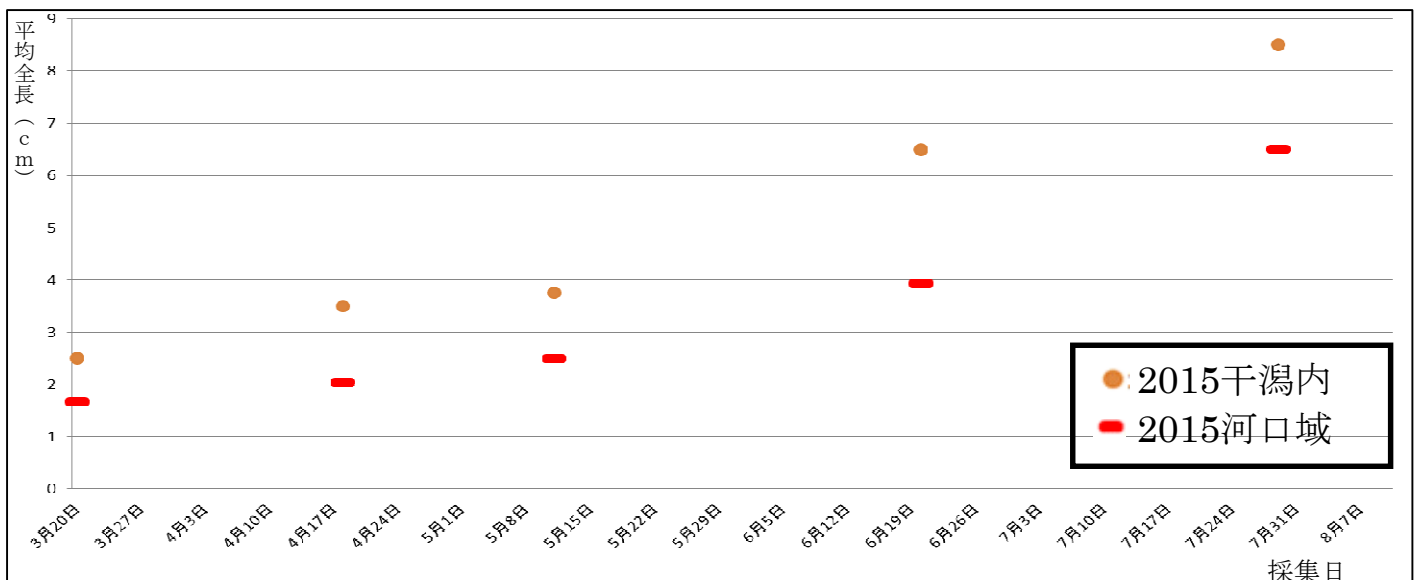
(Table.1 稚魚の採集数と大きさ)



(Fig.1 イシガレイ)



(Fig.2 消化管が見えるイシガレイ)



(Fig.3 干潟内と河口域の成長の比較)